

くみよみよ はればれ まんなか



美花果便り



Vol.65

都筑の町のほほまんなかで

～その 65～

「初めて会った時に細いその首を見て、私が世話をしないかん。そう思ったんですよ。変ですよ～。」
そう言って、Mさんは昨日の事のように笑うのです。

結婚相談所に親が申し込み、何人かのお相手とお見合いをしたそうです。大学の先生や、結婚したらすぐに一緒に海外赴任しようとか、コートをサッと肩に掛けてくれる人もいたそうです。でもそれを、ステキ！と思うことはなく、反対に、なんじゃ!と感じたそうです。それよりは、育ちの良さとやさしさがあふれ、しかし、痩せておりおまけに「僕は小さい時から体が弱くて、病気がちなんです。」と言うマイナスな自己アピール。「私が世話してご飯食べさせないかん！」という使命感に駆られてしまったそうです。

お見合いの後に、お母さんと二人こっそりその人の家を見に行ったそうです。郊外の建売住宅で、家の庭は草ぼうぼう。「ありゃ～草引きしないかん。」とこれまた心の中で腕まくりをしてしまったようです。

人の縁はとは不思議なものです。結婚はある意味博打のようなリスクを伴うものだと思っています。普通に考えると病気がちなお相手はリスクでもあるわけですが、それを自分のミッションととらえて選ぶというのも、なかなかの心意気です。何よりもその弱々しい体に勝る優しさと誰に対して公平に接するその真摯な姿勢を見抜いておられたようです。「うちの父さんは、お食事さんにも敬語を使うんちゃうか。」と息子さんが言うくらい、だれに対しても丁寧で、そして悪口や愚痴を言うことを見ることがありません。

満月の夜に亡くなって早6年。思い出しては涙してしまうのも無理からぬことです。ご主人さまに会える日まで、土産話をたくさん仕入れておきましょう。冥途の土産は多い方がいいですよ。 松田

みよみよ看護

【訪問看護ステーション】

住所：〒224-0033

横浜市都筑区茅ヶ崎東 4-9-18

電話：045-949-6277

FAX：045-949-6278

メール：e-matsuda@ni-care.jp

ホームページ：<http://www.ni-care.jp/>



新規のご相談は、看護、リハビリ共に、若干なら受けられると思います。

「看」という文字は、手をかざしてよく見るという意味合いがこめられています。

中国の禅僧が我々の中に存在する宝を見極めよ、という意味で「看看（みよみよ）」といっているところから名前をつけました。

皆様の心の中にある宝物を大切に、お家での生活を支えます。

【片付けながら、思い出す】



今、家の片付けをしている。普段は見ないようにしていた場所から、子どもたちの作品や、古い教科書、使い終わったノートなどが次々と出てくる。「こんなのあったなあ」手に取った瞬間、その頃のことがふっとよみがえる。字がまだ幼かったノート、頑張って描いた絵、学校から持ち帰ってきた作品。片付けるために始めたはずなのに、ページをめくったり、作品を眺めたりしているうちに、時間だけが過ぎていく。「もうこれは見ないよな」そう思った次の瞬間には、「でも、下の子が使えるかな？」なんて邪念が出てくる。結局、捨てることもできず、また箱に戻してしまう。片付けて、物との戦いというより、自分の気持ちとの戦いなのかもしれない。それでも、全部を残しておくわけにはいかない。そこで、子どもの作品は写真に撮ってから「ありがとう」とさよならすることにした。どうしても手放せないものは、実家に飾ってもらう。そうすれば、家の中は少しすっきりするし、思い出までなくなるわけではない。そんなことを考えていたら、最近、仕事でも大量のプリントを整理する機会があったことを思い出した。必要な書類を一枚一枚スキャンして、データとして残す。終わった後に、大量の紙ごみが出た。その紙の山を見たとき、なぜかとても気持ちがよかった。

「こんなに減ったんだ」目に見えて物がなくなっていくのが、思っていた以上に気持ちいい。必要な情報はデータとして残っているから、「捨ててしまった」という不安もない。家の片付けも、仕事の整理も、もしかしたら同じなのかもしれない。何でもかんでも捨てればいいわけではない。でも、「残す理由」を一つひとつ考えていくと、本当に必要なものが見えてくる。子どもの作品も、全部を取っておくのではなく、写真に残すという方法がある。思い出はデータとして残しておくこともできるし、どうしても残したいものだけを手元に置くこともできる。仕事でも、紙でなくてもいいものはデータにする。探しやすい、取り出しやすく、誰かが見ても分かりやすいように整理する。そうやって少しずつ、効率よく物や情報を扱えるようになっていきたい。

片付けをしていると、物が増えたことよりも、子どもたちがこんなにも成長したことに気づかされる。小さかった手で描いた絵も、たどたどしい文字で書いたノートも、今の子どもたちにはもう必要ないものなのかもしれない。でも、そこには確かに、その時にしかなかった時間が詰まっている。だから、全部を捨てる必要はないし、全部を残す必要もない。

大切なのは、思い出を大事にしながら、今の自分たちに必要な形へ変えていくことなのかもしれない。今日も片付けは、なかなか進まない。少しずつ物を減らしながら、これからの暮らしはもっとシンプルに、仕事はもっと効率よく。そんなふうに、今の自分に合った形へ整えていきたいと思う。 事務 松田直美

～風に吹かれて～

暦の上では秋を迎える九月ですが、日中はまだ厳しい残暑が続く頃です。朝晩との気温差にも気をつけながら、水分をこまめにとり、無理をせずに過ごしましょう。

九月といえば、お月見の季節です。今年の中秋の名月は九月二十五日。月見団子やすずきを飾り、ゆっくりと夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。昔のお月見や秋祭りの思い出や、懐かしい記憶がよみがえり、自然と笑顔が広がることでしょう。野原では色鮮やかなコスモスが咲き、赤とんぼが飛び交う姿にも、少しずつ深まる秋を感じます。季節の移ろいを楽しみながら、健やかな毎日をお過ごしください。

四季乃 AI

